

《肉色塗入道頭形兜》江戸時代(18~19世紀) 個人蔵

## 日本が世界に誇る、武の芸術

戦国アバンギャルドとその昇華  
兜 KABUTO



《猪団目貫》  
短冊銘 政隨  
江戸時代中期 個人蔵

**戦** 国時代、戦に臨む武将たちは頭上に載せる兜の造形に神仏の象徴を追求しました。大将が陣床几に座りシンボルとして存在するという戦闘の場において、これらの独創的な兜はいわば自軍のトレード・マークとして機能したに違ひありません。それは戦に臨む武将たちの緊張感から紡ぎ出された究極の形でした。

岩手県指定有形文化財  
(黒漆塗燕尾形兜) 桃山時代 岩手県立博物館蔵



豊臣秀吉の重臣で、会津若松城主となった蒲生氏郷(1556~1595)所用の黒漆塗燕尾形兜。左右に振り分けられた双方の尾の中央を走る鎧筋やその鋭角に尖った先端部、鰐状に後ろへと張った形状など、そのスタイリッシュな造形は「カッコイイ」兜として今も昔も愛好家から高い人気を誇ります。

江戸時代に入り、泰平の世で有力なバトロンを得た職人たち、刀装具というジャンルにおいて、大胆かつ洗練された意匠に多種多様な技法を用いて新たな世界を切り開きました。漆塗りで竹に似せたり、革に似せたりする、「変わり塗り」が隆盛し、彫金においてもまた、革や織物など異なる素材の質感に似せた刀装具が好んで作られました。これらは実用ではなく、高度な工芸技術と粋な趣向に満ちた「質感の擬似再現」を愉しむために作る、という文化の成熟期だからこそ生まれた作品でした。

そして戦国の世に生まれた変わり兜の造形と、江戸時代に高まった工芸技術によって、泰平の世



の変わり兜が生まれました。

それらの兜の多くは伝承が失われ、いったい誰が何の目的で制作させたのかわかりません。肉色塗入道頭形兜は、鉄打ち出しでまぶたと耳より上を形作り、鼻より下は目の下全体を覆う「目の下頬」と呼ばれる頬当で表し、全体に肉色の漆を塗っています。鼻の頭にある蝶番でこの二つのパーツが可動的に固定されているのは、顔の表情の変化をよりリアルに表現する遊び心でしょうか。額には深い皺、眉には白毛が植えられています。

戦国の世に時代の先端を駆け抜けた造形と、その後に花開いた細密で遊び心にあふれた武具の造形をお楽しみください。

(学芸グループ 志田理子)



重要文化財《睡布袋図二所物》  
銘 宗珉(花押) 江戸時代中期 個人蔵

## ミュージアムショップ

見て・選んで楽しい武将グッズ  
戦国グッズ専門店“戦国魂”商品入荷します



兜フィギュアストラップ  
各630円(税込)



武将紙缶飴  
480円(税込)



復刻「信長の金平糖」  
1,050円(税込)

### プレゼントコーナー

※抽選で4名様に□マークの品を差し上げます。  
「プレゼントコーナー応募」、ご住所、お名前、電話番号、隆泉の感想と隆泉に掲載したい一言コメントを明記の上、佐野美術館「隆泉」係まで郵便かFaxでお送りください。一言コメントのテーマは「私のオススメ花見スポット」です。しめきり: 2014年2月10日(消印有効)  
・当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。  
・いただいた個人情報はプレゼントの発送以外に使用いたしません。

その他、  
兜や甲冑書籍も  
取り揃えます。



ダイカットメモ  
各350円(税込)

蒔絵紋  
各315円(税込)



祇園女御

入道平清盛

「隆泉」2014年冬号



通巻39号(年4回発行)

平成26年1月1日発行

編集・発行/公益財団法人 佐野美術館

〒411-0838 静岡県三島市中田町1-43

TEL 055-975-7278

FAX 055-973-1790

http://www.sanobi.or.jp/

デザイン/きむら工房

印刷/株式会社エムクリエイション

vol. 39

## まんだら 人形曼荼羅— 辻村寿三郎、 人間の業を 形作る



血染めの崇徳上皇

辻村寿三郎人形展 平家物語縁起  
～清盛、その絆と夢～

2014.2.16[日]—3.30[日]

長

く現代日本の創作人形の第一線で活躍してきた辻村寿三郎の、佐野美術館では三度目となる作品展です。

寿三郎はかつて「新八犬伝」で脚光を浴び、これまで真田十勇士、源氏物語、西鶴五人女、マダムバタフライや唐人お吉など、歴史に翻弄され語り継がれてきた人々の姿を人形に作り上げてきました。今回は平家物語をテーマに、壮大な人形絵巻が繰り広げられます。

平家物語は主人公平清盛の強い個性と壯絶な人間模様から、人形に形作ることが難しいようにも思えます。しかし、寿三郎は物語の持つあくと、艶やかな裂をまとった人形たちの美の世界を、絶妙のバランスで共存させることに成功しています。

「歴史のみが眞実とは言えない」のである—寿三郎は、歴史上の人物を人形に作り上げる時にこう心掛けているといいます。史実として正しい解釈よりも、人間味あふれる物語を取り上げることで、人の情念をも表現することができます。平家物語の登場人物も、その存在は知られていても、姿かたちまでは誰も特定することはできません。“存在”に“形”を与える仕事、それこそが人形作家寿三郎の真骨頂といえるでしょう。

本展は、辻村寿三郎の集大成ともいえる渾身の作品を一堂に会した、必見の展覧会です。見る者自身の心が映し出されるほど、人の心を持った人形。人間の業のむなしさを謳う物語は、寿三郎の人形世界に最もふさわしいテーマなのかもしれません。

(学芸グループ長 坪井則子)

※戦国アバンギャルドとその昇華 兜  
展  
会期中(1/7~2/11)のみの販売です。